

（案）

イソチアニル 農薬蜜蜂影響評価書

2023年12月26日

農業資材審議会農薬分科会

農薬蜜蜂影響評価部会

目 次

<経緯>	2
<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿>	2
I. 評価対象農薬の概要	3
1. 有効成分の概要	3
2. 有効成分の物理的・化学的性状	4
3. 申請に係る情報	5
4. 作用機作	5
5. 適用病虫害の範囲及び使用方法（別添参照）	6
II. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要	9
1. ミツバチに対する安全性に係る試験	9
2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標）	10
3. 花粉・花蜜残留試験	13
4. 蜂群への影響試験	13
III. 毒性指標	14
1. 毒性試験の結果概要	14
2. 毒性指標値	14
3. 毒性の強さから付される注意事項	14
IV. 暴露量の推計	15
V. 評価結果	15
評価資料	15
評価資料（公表文献）	15

<経緯>

令和 4 年（2022年）12 月 14 日

農業資材審議会への諮問

令和 5 年（2023年）8 月 24 日

農業資材審議会農薬分科会

農薬蜜蜂影響評価部会（第10回）

令和 5 年（2023年）9 月 25 日

国民からの意見・情報の募集

から10 月 24 日

令和 5 年（2023年）12 月 26 日

農業資材審議会農薬分科会

農薬蜜蜂影響評価部会（第11回）

<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿>（第10回、第11回）

（委員）

五箇 公一

與語 靖洋

（臨時委員）

山本 幸洋

（専門委員）

稲生 圭哉

永井 孝志

中村 純

横井 智之

イソチアニル

I. 評価対象農薬の概要

1. 有効成分の概要

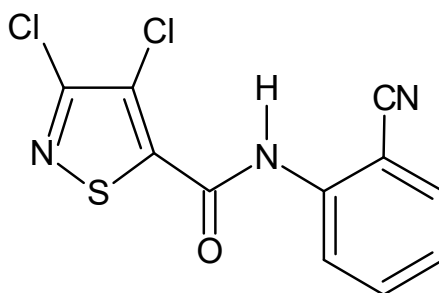
- | | |
|-----------|--|
| 1.1 申請者 | 住友化学株式会社 |
| 1.2 登録名 | イソチアニル
3,4-ジクロロ-2'-シアノ-1,2-チアゾール-5-カルボキシアニリド |
| 1.3 一般名 | isotianil (ISO 名) |
| 1.4 化学名 | |
| IUPAC名 : | 3,4-dichloro-2'-cyano-1,2-thiazole-5-carboxanilide |
| CAS名 : | 3,4-dichloro- <i>N</i> -(2-cyanophenyl) -5-isothiazolecarboxamide
(CAS No. 224049-04-1) |
| 1.5 コード番号 | BYF01047, S-2310 |

1.6 分子式、構造式、分子量

分子式

C₁₁H₅Cl₂N₃OS

構造式



分子量

298.15

2. 有効成分の物理的・化学的性状

試験項目			純度 (%)	試験方法	試験結果
色調・形状			98.8	目視	白色・固体(粉末)
臭気			98.8	官能法	わずかな芳香臭
融点			98.8	OECD 102	193.7~195.1℃
沸点			98.8	OECD 103	測定不能(372℃付近で分解)
密度			98.8	OECD109	1.11 g/cm³(20℃)
蒸気圧			99.5	OECD 104	< 8.7 × 10 ⁻⁹ Pa (35℃)
熱安定性			98.8	OECD 113	282℃まで安定
溶解度	水		99.5	OECD 105	0.50 mg/L (20℃)
	有機溶媒	ヘキサン	98.8	OECD 105	0.0594 g/L (20℃)
		トルエン			6.87 g/L (20℃)
		ジクロロメタン			16.6 g/L (20℃)
		アセトン			4.96 g/L (20℃)
		メタノール			0.775 g/L (20℃)
		酢酸エチル			3.62 g/L (20℃)
	解離定数 (pK _a)		99.5	OECD 112	8.92 (20℃)
1-オクタノール／水分配係数 (log P _{ow})		99.5	OECD 107	2.96(25℃、pH 7.2)	
加水分解性			>99	OECD 111	半減期 60.8~71.4 日(25℃、pH 7)
水中光分解性			>99	12農産第8147号	半減期2.2日 (pH6.5滅菌蒸留水、25℃、27.95 W/m ² 、300~400 nm)

試験項目	純度 (%)	試験方法	試験結果																					
紫外可視吸収 (UV/VIS) スペクトル	98.8		<table><tr><th>極大吸収波長 (nm)</th><th>吸光度</th><th>モル吸光係数 (L mol⁻¹ cm⁻¹)</th></tr><tr><td colspan="3">中性(メタノール)</td></tr><tr><td>279</td><td>0.684</td><td>10200</td></tr><tr><td colspan="3">酸性(pH0.8)</td></tr><tr><td>279</td><td>0.668</td><td>9950</td></tr><tr><td colspan="3">アルカリ性(pH13.3)</td></tr><tr><td>266</td><td>0.701</td><td>10500</td></tr></table>	極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 (L mol ⁻¹ cm ⁻¹)	中性(メタノール)			279	0.684	10200	酸性(pH0.8)			279	0.668	9950	アルカリ性(pH13.3)			266	0.701	10500
		極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 (L mol ⁻¹ cm ⁻¹)																				
		中性(メタノール)																						
		279	0.684	10200																				
		酸性(pH0.8)																						
		279	0.668	9950																				
		アルカリ性(pH13.3)																						
266	0.701	10500																						
試験項目	試験方法	試験結果																						
土壌吸着係数	OECD106	K ^{ads} _{Foc} : 497~1596(4種類の国内土壌)																						
土壌残留性	記載なし	粒剤、水田土壌(2種類) : 半減期 0.5~13日 (土壌の深さ10 cm、減衰曲線による推定値)																						
	30消安第6278号	水和剤、畑地土壌(2種類) : 半減期 4.9~7.4日(土壌の深さ0~10 cm、FOMCモデルによる推定値) 半減期 4.5~7.1日(土壌の深さ0~20 cm、FOMCモデルによる推定値)																						

3. 申請に係る情報

中国、韓国、豪州等で登録されている。

4. 作用機作

イソチアゾール環を持つ殺菌剤である。病原菌に対する直接的な作用はなく、植物病害抵抗性関連酵素の作用を亢進させる。(FRAC 分類 : P3※)

※参照 : <https://www.frac.info/>

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法（54 製剤、別添参照）

- ・スタウトダントツ箱粒剤及びボクシー粒剤
（クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤）
- ・スタウトダントツ箱粒剤 0.8 及びツインターボ箱粒剤 0.8
（クロチアニジン 0.80%・イソチアニル 2.0%粒剤）
- ・ルーチン粒剤及びクミAILルーチン粒剤
（イソチアニル 3.0%粒剤）
- ・ルーチンアドマイヤー箱粒剤及びクミAILルーチンアドマイヤー箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤）
- ・ルーチンアドスピノ箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤）
- ・ルーチンアドスピノ G T 箱粒剤及びシャリオ箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・
チフルザミド 3.0%粒剤）
- ・ルーチンバリアード箱粒剤
（チアクロプリド 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤）
- ・ツインターボフェルテラ箱粒剤
（クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤）
- ・ルーチントレス箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤）
- ・箱いり娘粒剤及びボクシーWR 粒剤
（クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%・
フラメトピル 4.0%粒剤）
- ・スタウト顆粒水和剤
（イソチアニル 40.0%水和剤）
- ・ルーチンフロアブル
（イソチアニル 18.3%水和剤）
- ・サイクルヒット箱粒剤及びフルターボ箱粒剤
（クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・
フラメトピル 4.0%粒剤）
- ・スタウトダントツ顆粒水和剤及びツインターボ顆粒水和剤
（クロチアニジン 15.0%・イソチアニル 20.0%水和剤）
- ・エバーゴルフオルテ箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）
- ・エバーゴルフワイド箱粒剤及びエバーゴルフプラス箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・
ペンフルフェン 2.0%粒剤）

- ・箱王子粒剤
(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・スタウトパディート箱粒剤、ルーチンデュオ箱粒剤、ツインパディート箱粒剤及び
ルーチンパンチ箱粒剤
(シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ボクシー S P 粒剤
(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ルーチンエキスパート箱粒剤
(イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・
ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ・スタウトパディート D X 箱粒剤
(クロチアニジン 0.80%・シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・箱大臣粒剤
(クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)
- ・ハコナイト粒剤
(クロチアニジン 1.5%・フィプロニル 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ルーチンブライト箱粒剤
(シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ・スクラム箱粒剤
(クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・
ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ・防人箱粒剤
(クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・
イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・箱維新粒剤及び箱将軍粒剤
(クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・
フラメトピル 4.0%粒剤)
- ・フルスロットル箱粒剤
(シアントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・
ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ・ルーチンコア箱粒剤
(チアクロプリド 1.45%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ルーチンシード F S
(イソチアニル 41.7%水和剤)
- ・ヨーバルトップ箱粒剤
(テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ミネクトブラスター顆粒水和剤
(シアントラニリプロール 15.0%・イソチアニル 40.0%水和剤)

- ・ ヨーバルパワーE V箱粒剤
(テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ・ ヨーバルプライムE V箱粒剤
(テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ・ ヨーバルUG箱粒剤
(テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ スタウトアレス箱粒剤及び稲名人箱粒剤
(オキサゾスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ ミネクトフォルスターSC
(シアントラニリプロール 6.5%・イソチアニル 17.4%・ペンフルフェン 17.4%水和剤)
- ・ スタウトアレスモンガレス箱粒剤及び稲大将箱粒剤
(オキサゾスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%・インピルフルキサム 2.0%粒剤)
- ・ レアフロアブル
(イソチアニル 18.3%水和剤)

Ⅱ. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要

1. ミツバチに対する安全性に係る試験

イソチアニルのミツバチに対する安全性に係る試験を表1に示す。

表1：ミツバチに対する安全性に係る試験

試験の種類	評価段階	試験数	公表文献数*
成虫単回接触毒性試験	第1段階	1	0
成虫単回経口毒性試験		1	0
成虫反復経口毒性試験		1	0
幼虫経口毒性試験		0	0
花粉・花蜜残留試験		0	
蜂群への影響試験	第2段階	0	

*（参考）公表文献の検索結果

（生活環境動植物及び家畜に対する毒性に関する分野）

データベース名： Web of Science (Core Collection)、MEDLINE、KCI-Korean Journal Database、Russian Science Citation Index、SciELO Citation Index及びJ-STAGE

検索対象期間： 2006年7月1日から2021年6月30日

「生活環境動植物及び家畜に対する毒性に関する分野」に該当する文献数	42
-----------------------------------	----



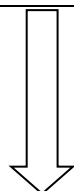
【表題と概要に基づく適合性の有無の評価】
明らかに評価の目的と適合しない文献の除外

「適合性なし」以外の文献数	9
---------------	---



【全文に基づく適合性の有無の評価】
評価の目的と適合しない文献の除外

「適合性あり」の文献数	0
-------------	---



【適合性の分類】
分類基準を設定して全文をレビューし、評価目的への適合性を
a、b、c の3つの区分に分類
区分a；リスク評価パラメーターを設定又は見直すために利用可能と判断される文献
区分b；リスク評価パラメーターを設定する際の補足データとして利用が可能と想定される文献
区分c； a又はbに分類されない文献

「区分a」及び「区分b」に分類された文献数	a	b
	0	0



試験生物として「セイヨウミツバチ (*Apis mellifera*)」
を用いている

審議の対象とする文献数	a	b
	0	0

2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標）

2.1 成虫単回接触毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回接触毒性試験が実施され、48 h LD₅₀ は >100 µg ai/bee であった。

表 2：単回接触毒性試験結果（資料 1、2012 年）

被験物質	原体		
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)/ 5反復、10頭/区		
準拠ガイドライン	OECD 214(1998)		
試験期間	48 h		
投与溶媒(投与液量)	アセトン(5µL)		
暴露量 (設定量に基づく有効成分換算値) (µg ai /bee)	対照区 (無処理) (死亡率 %)	対照区 (アセトン) (死亡率 %)	100
死亡数/供試生物数 (48 h)	0/50 (0%)	0/50 (0%)	0/50
観察された行動異常	なし		
LD ₅₀ (µg ai /bee) (48 h)	>100		

2.2 成虫単回経口毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回経口毒性試験が実施され、48 h LD₅₀ は >108.8 µg ai/bee であった。

表 3：単回経口毒性試験結果（資料 1、2012 年）

被験物質	原体		
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)/ 5反復、10頭/区		
準拠ガイドライン	OECD 213(1998)		
試験期間	48 h		
投与溶液(投与液量)	シュガーシロップ (100~200 mg/区)		
助剤(濃度%)	アセトン(5%)		
暴露量 (実測値(摂餌量による補正值)に基づく有効成分換算値) (µg ai/bee)	対照区 (無処理) (死亡率 %)	対照区 (アセトン) (死亡率 %)	108.8
死亡数/供試生物数 (48 h)	0/50 (0.0%)	0/50 (0.0%)	0/50
観察された行動異常	なし		
LD ₅₀ (µg ai/bee) (48 h)	>108.8		

2.3 成虫反復経口毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた反復経口毒性試験が実施され、10 d LDD₅₀ は>4.20 µg ai/bee/day であった。

表 4：反復経口毒性試験結果（資料 2、2016 年）

被験物質	原体						
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)/ 4反復、10頭/区						
準拠ガイドライン	KLING, A. and SCHMITZER, S. (2015) 及びOECD TG(草案)						
試験期間	10 d						
投与溶液	50%ショ糖溶液						
助剤(濃度%)	アセトン(5 %)+Tween80 (1 %)+キサントラン(0.1%)						
暴露量 (実測値(摂餌量による補正值)に基づく有効成分換算値) (µg ai/bee/day)	対照区 (死亡率 %)	助剤 対照区 (死亡率 %)	0.70	1.18	1.66	2.27	4.20
死亡数/供試生物数 (10 d)	1/40 (2.5%)	2/40 (5.0%)	3/40	2/40	1/40	1/40	3/40
観察された行動異常	運動障害						
LDD ₅₀ (µg ai/bee/day) (10 d)	>4.20						

2.4 幼虫経口毒性試験

該当なし

3. 花粉・花蜜残留試験

該当なし

4. 蜂群への影響試験

該当なし

Ⅲ. 毒性指標

1. 毒性試験の結果概要

毒性試験の結果概要を表 5 に示す。

表 5：各試験の毒性値一覧

毒性試験	毒性値	
	エントポイント	試験1
成虫単回接触毒性	48 h LD ₅₀	>100 µg ai/bee
成虫単回経口毒性	48 h LD ₅₀	>108.8 µg ai/bee
成虫反復経口毒性	10 d LDD ₅₀	>4.20 µg ai/bee/day

2. 毒性指標値

成虫単回接触毒性については、48 h LD₅₀ 値 (>100 µg ai/bee) を採用し、毒性指標値を 100 µg ai/bee とした。

成虫単回経口毒性については、48 h LD₅₀ 値 (>108.8 µg ai/bee) を採用し、毒性指標値を 100 µg ai/bee とした。

成虫反復経口毒性については、10 d LDD₅₀ 値 (>4.20 µg ai/bee/day) を採用し、毒性指標値を 4.2 µg ai/bee/day とした。

イソチアニルのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値を表 6 に示す。

表 6：イソチアニルのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値

生育段階	毒性試験の種類	毒性指標値(単位)	
成虫	単回接触毒性	48 h LD ₅₀ (µg ai/bee)	100
	単回経口毒性	48 h LD ₅₀ (µg ai/bee)	100
	反復経口毒性	10 d LDD ₅₀ (µg ai/bee/day)	4.2

3. 毒性の強さから付される注意事項

成虫単回接触毒性及び成虫単回経口毒性共に LD₅₀ は 11 µg/bee 以上であったため、注意事項は要しない。

IV. 暴露量の推計

本剤は、昆虫成長制御剤に該当せず、成虫の急性接触毒性（単回接触毒性試験の LD₅₀ 値）が 11 µg/bee 以上であること、及び成虫の急性接触毒性以外の毒性値が超値（成虫単回経口毒性試験 LD₅₀ : >108.8 µg/bee、成虫反復経口毒性試験 LDD₅₀ : >4.20 µg/bee/day）であることから、リスク評価を行う対象とはしない。そのため、暴露量の推計は行わない。

V. 評価結果

イソチアニルは、申請された適用方法に基づき使用される限りにおいて、ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはないと考えられる。

評価資料

資料 番号	報告年	題名、出典（試験施設以外の場合） 試験施設、報告書番号 GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無	提出者
1	2012	Effects of isotianil tech. (Acute Contact and Oral) on Honey Bees (<i>Apis mellifera</i> L.) in the Laboratory IBACON GmbH Report No.: RKW-0029 GLP、未公表	住友化学(株)
2	2016	Isotianil - Assessment of Effects on the Adult Honey Bee, <i>Apis mellifera</i> L., in a 10 Day Chronic Feeding Test under Laboratory Conditions Eurofins Agroscience Services Report No.: RKW-0065 GLP、未公表	住友化学(株)

評価資料（公表文献）

該当なし

別添：適用病害虫の範囲及び使用方法（イソチアニル）

目 次

1. 登録番号 22698：スタウトダントツ箱粒剤、 登録番号 23618：ボクシー粒剤 （クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤）	4
2. 登録番号 22699：スタウトダントツ箱粒剤 0.8、 登録番号 22700：ツインターボ箱粒剤 0.8 （クロチアニジン 0.80%・イソチアニル 2.0%粒剤）	8
3. 登録番号 22701：ルーチン粒剤、 登録番号 22702：クミアイルーチン粒剤 （イソチアニル 3.0%粒剤）	10
4. 登録番号 22703：ルーチンアドマイヤー箱粒剤、 登録番号 22704：クミアイルーチンアドマイヤー箱粒剤 （イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤）	11
5. 登録番号 22705：ルーチンアドスピノ箱粒剤 （イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤）	12
6. 登録番号 22706：ルーチンアドスピノGT箱粒剤、 登録番号 23039：シャリオ箱粒剤 （イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・チフルザミド 3.0%粒剤）	13
7. 登録番号 22707：ルーチンバリアード箱粒剤 （チアクロプリド 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤）	14
8. 登録番号 22708：ツインターボフェルテラ箱粒剤 （クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤）	15
9. 登録番号 22915：ルーチントレス箱粒剤 （イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤）	16
10. 登録番号 23033：箱いり娘粒剤、 登録番号 23755：ボクシーWR粒剤 （クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤）	17
11. 登録番号 23186：スタウト顆粒水和剤 （イソチアニル 40.0%水和剤）	20
12. 登録番号 23195：ルーチンフロアブル （イソチアニル 18.3%水和剤）	21

1 3.	登録番号 23204：サイクルヒット箱粒剤、 登録番号 23205：フルターボ箱粒剤 (クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・フラメトピ ル 4.0%粒剤)	21
1 4.	登録番号 23206：スタウトダントツ顆粒水和剤、 登録番号 23207：ツインターボ顆粒水和剤 (クロチアニジン 15.0%・イソチアニル 20.0%水和剤)	22
1 5.	登録番号 23458：エバーゴルフオルテ箱粒剤 (イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)	23
1 6.	登録番号 23459：エバーゴルワイド箱粒剤、 登録番号 23627：エバーゴルプラス箱粒剤 (イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフ エン 2.0%粒剤)	24
1 7.	登録番号 23511：箱王子粒剤 (クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤)	25
1 8.	登録番号 23570：スタウトパディート箱粒剤、 登録番号 23571：ルーチンデュオ箱粒剤、 登録番号 23621：ツインパディート箱粒剤、 登録番号 23622：ルーチンパンチ箱粒剤 (シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)	27
1 9.	登録番号 23612：ボクシー S P 粒剤 (クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤)	29
2 0.	登録番号 23634：ルーチンエキスパート箱粒剤 (イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)	31
2 1.	登録番号 23773：スタウトパディート D X 箱粒剤 (クロチアニジン 0.80%・シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)	32
2 2.	登録番号 23890：箱大臣粒剤 (クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)	34
2 3.	登録番号 24027：ハコナイト粒剤 (クロチアニジン 1.5%・フィプロニル 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)	35
2 4.	登録番号 24029：ルーチンブライト箱粒剤 (シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)	36
2 5.	登録番号 24128：スクラム箱粒剤 (クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフ ルフェン 2.0%粒剤)	37
2 6.	登録番号 24129：防人箱粒剤 (クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤) ..	38

27. 登録番号 24130：箱維新粒剤、 登録番号 24131：箱将軍粒剤 (クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・フラメ トピル 4.0%粒剤)	39
28. 登録番号 24132：フルスロットル箱粒剤 (シアントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフル フェン 2.0%粒剤)	40
29. 登録番号 24158：ルーチンコア箱粒剤 (チアクロプリド 1.45%・イソチアニル 2.0%粒剤)	41
30. 登録番号 24194：ルーチンシードF S (イソチアニル 41.7%水和剤)	42
31. 登録番号 24319：ヨーバルトップ箱粒剤 (テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)	43
32. 登録番号 24473：ミネクトブラスター顆粒水和剤 シアントラニリプロール 15.0%・イソチアニル 40.0%水和剤)	44
33. 登録番号 24474：ヨーバルパワーE V箱粒剤 テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒 剤)	45
34. 登録番号 24475：ヨーバルプライムE V箱粒剤 (テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)	46
35. 登録番号 24476：ヨーバルU G箱粒剤 (テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)	47
36. 登録番号 24514：スタウトアレス箱粒剤、 登録番号 24516：稲名人箱粒剤 (オキサゾスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)	48
37. 登録番号 24597：ミネクトフォルスターS C (シアントラニリプロール 6.5%・イソチアニル 17.4%・ペンフルフェン 17.4%水和剤)	49
38. 登録番号 24615：スタウトアレスモンガレス箱粒剤、 登録番号 24616：稲大将箱粒剤 (オキサゾスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%・インピルフルキサム 2.0%粒剤)	50
39. 登録番号 ー※：レアフロアブル (イソチアニル 18.3%水和剤)	51

※新規登録申請中

1. 登録番号 22698 : スタウトダントツ箱粒剤、
登録番号 23618 : ボクシー粒剤
(クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)

(1) スタウトダントツ箱粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イソチアルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病 いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミヅウムシ イネトヨイムシ ウンカ類 ツマクノヨコバイ フタオビコヤガ ニカメイチュウ イネヒメハモクグリハエ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)						
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミヅウムシ イネトヨイムシ ウンカ類 ツマクノヨコバイ フタオビコヤガ ニカメイチュウ イネヒメハモクグリハエ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種時(覆土前)~移植当日				
	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)						
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種時(覆土前)				
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジンを含む農薬の総使用回数	イソチアルを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネミズウムシ イネトヨイムシ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播でののは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播でののは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
湛水直播水稻	いもち病 イネミズウムシ イネトヨイムシ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

(2) ボクシー粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イリチアールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病 いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミズゾウムシ イネトノヨイモシ ウンカ類 ツマゲロヨコバイ フタオビコヤガ ニカメイチュウ イネヒメハモグリハエ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミズゾウムシ イネトノヨイモシ ウンカ類 ツマゲロヨコバイ フタオビコヤガ ニカメイチュウ イネヒメハモグリハエ		は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病		は種時(覆土前)				
稲	いもち病 イネミズゾウムシ イネトノヨイモシ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播での種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播での種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

作物名	適用病虫害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イソチアールを含む農薬の総使用回数
湛水直播水稻	いもち病 イネヌスビトハギ イネノメイシ		は種時		は種同時 施薬機を用いて土中施用する。	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

2. 登録番号 22699 : スタウトダントツ箱粒剤 0.8、
登録番号 22700 : ツインターボ箱粒剤 0.8
(クロチアニジン 0.80%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
湛水直播水稻	いもち病 イネミズゾウムシ イネトヨイシ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミズゾウムシ イネトヨイシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネヒメハモグリバエ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)					
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)					
	イネコマムシ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	移植当日				
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤 の使 用回 数	使用方法	クロチアニジンを含 む農薬の 総使用回数	イソチアニルを含 む農薬 の総使用 回数
稲 (箱育苗)	苗立枯細菌病 苗腐敗症(も み枯細菌病 菌)	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	育苗箱の床 土又は覆土 に均一に混 和する。	4回以内(移植 時までの処 理は1回以 内、本田での 散布、空中散 布、無人航空 機散布は合 計3回以内)	3回以内 (移植時ま での処理 は1回以 内、本田で は2回以 内)
		高密度には種す る場合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使 用土壌約5 L)1箱 当り 50~100 g)					
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種時(覆 土前)		育苗箱の上 から均一に 散布する。		
		高密度には種す る場合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使 用土壌約5 L)1箱 当り 50~100 g)					
稲	いもち病 いねみづぐみ いねくろいし	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播 での種時 又は移植時 までの処理 は1回以内、 本田での散 布、空中散 布、無人航空 機散布は合 計3回以内)	3回以内 (直播での 種時又は 移植時 までの処 理は1回以 内、本田で は2回以 内)

3. 登録番号 22701 : ルーチン粒剤、
登録番号 22702 : クミアイルーチン粒剤
(イソチアニル 3.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソチアルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当たり 50 g	は種前	1 回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)				育苗箱の床土に均一に混和する。	
	穂枯れ(ごま葉枯病菌)				育苗箱の覆土に均一に混和する。	
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病		は種時(覆土前)			
	いもち病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病 内穎褐変病		は種時(覆土前)~移植当日			
稲	いもち病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	1 kg/10 a	収穫 30 日前まで	2 回以内	湛水散布	3 回以内(直播での は種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)

4. 登録番号 22703 : ルーチンアドマイヤー箱粒剤、
登録番号 22704 : クミアイルーチンアドマイヤー箱粒剤
(イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	イチチニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	内穎褐変病 穂枯れ(ごま 葉枯病菌)	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	移植当日	1 回	育苗箱の 上から均 一に散布 する。	3 回以内 (移 植時までの処 理は 1 回以 内、本田での 散布は 2 回以 内)	3 回以内(移 植時までの 処理は 1 回 以内、本田 では 2 回以 内)
	白葉枯病 もみ枯細菌病		は種時 (覆土前) ～ 移植当日				
	いもち病 イネヒメダカバエ イネミズゾウムシ イネトコイシ ツマクハコバエ ウナカ類		は種前		育苗箱の 床土又は 覆土に均 一に混和 する。		
	イネサギミマ		は種時 (覆土前) ～ 移植当日		育苗箱の 上から均 一に散布 する。		
			は種前		育苗箱の 床土に均 一に混和 する。		

5. 登録番号 22705 : ルーチンアドスピノ箱粒剤

(イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	スピノサドを含む農薬の総使用回数	イソチアルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネザミ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	移植 2 日前～ 移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)	1 回	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病		移植当日					
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病		は種時(覆土前)					
	白葉枯病 もみ枯細菌病 イネミズウムシ イネトヨイムシ ウカ類 ツマクダヨコバイ イネヒメグサリハエ イネツトムシ フタホシコヤガ コブノメガ ニカメイチュウ いもち病		は種時(覆土前)～移植当日					
	イネミズウムシ イネトヨイムシ ウカ類 ツマクダヨコバイ イネヒメグサリハエ イネツトムシ フタホシコヤガ コブノメガ ニカメイチュウ いもち病		は種前					
	イネザミ	高密度には種する場合は 1 kg/10 a (育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植 2 日前～ 移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。			
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病	移植当日						
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	は種時(覆土前)						

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	スピノサドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	白葉枯病 もみ枯細菌病 イネミズウムシ イネトモイシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネヒメハモグリハエ イネツトムシ フタホヒコヤガ コブノメイガ ニカメイチュウ いもち病	高密度には種する場合は1 kg/10 a (育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約5 L)1 箱当り 50~100 g)	は種時(覆 土前)~移植 当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

6. 登録番号 22706 : ルーチンアドスピノ G T 箱粒剤、

登録番号 23039 : シャリオ箱粒剤

(イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・チフルザミド 3.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	スピノサドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	チフルザミドを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネツトムシ ニカメイチュウ イネミズウムシ イネトモイシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメイガ フタホヒコヤガ いもち病 紋枯病 白葉枯病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約5 L) 1箱当り 50 g	移植 2 日前~ 移植当 日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	3回以内 (移植時 までの 処理は1 回以 内、本 田での 散布は2 回以内)	1回	3回以内 (移植時 までの 処理は1 回以 内、本 田では2 回以 内)	3回以内 (移植時 までの 処理は1 回以 内、本 田では2 回以 内)
	もみ枯細菌病 内穎褐変病		移植当 日						

7. 登録番号 22707：ルーチンバリアード箱粒剤
(チアクロプリド 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チクロプリドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネノロイムシ イネミズゾウムシ ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ いもち病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の 床土又は 覆土に均 一に混和 する。	1 回	3 回以内(移植時までの 処理は 1 回 以内、本田 では 2 回以 内)
	白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)		は種時(覆 土前)~移 植当日		育苗箱の 上から均 一に散布 する。		
	苗腐敗症(もみ枯細菌 病菌)		は種時(覆 土前)				
	もみ枯細菌病		移植当日				

8. 登録番号 22708 : ツインターボフェルテラ箱粒剤

(クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	クロラントリニプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアルを含む農薬の総使用回数	
稲 (箱育苗)	いもち病 穂枯れ(ごま 葉枯病菌) 白葉枯病 イネミズゾウムシ イネトモイシ ウカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタホシコヤカ イネツトムシ コブノメイカ 内穎褐変病	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土前)~移植 当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	4 回以内 (移植時までの 処理は 1 回以内、 本田での散布、 空中散布、無人 ヘリ散布は合計 3 回以内)	1 回	3 回以内 (移植時までの 処理は 1 回以内、 本田では 2 回 以内)	
		高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)							
	苗腐敗症(も み枯細菌病菌)	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土前)		は種前				育苗箱の 床土に均一に混和 する。
		高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)							
	穂枯れ(ごま 葉枯病菌)	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	育苗箱の 床土又は 覆土に均一に混和 する。						
	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病								
	穂枯れ(ごま 葉枯病菌)	高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	育苗箱の 床土に均一に混和 する。						
	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病								

9. 登録番号 22915 : ルーチントレス箱粒剤

(イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	イネアザミウマ イネツトムシ ツマグロヨコバイ ウナカ類 イネヒメハモグリバエ イネミスゾウムシ イネトヨイムシ コブノメイガ ヒカメイチュウ フタホシコヤカ いもち病		は種時(覆土前)~ 移植当日		育苗箱の上から均一に散布る。			
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 白葉枯病 もみ枯細菌病		は種時(覆土前)					
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)		移植当日					
	内穎褐変病		移植当日					

10. 登録番号 23033 : 箱入り娘粒剤、

登録番号 23755 : ボクシーWR 粒剤

(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)

(1) 箱入り娘粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	スピネトラムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	フラメトピルを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 イネトヨイムシ イネミスゾウムシ コメイチユ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内)
湛水直播水稻	いもち病 紋枯病 イネミスゾウムシ イネトヨイムシ コメイチユ フタオビコヤカ イネツトムシ キリウジカガコンボ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (は種時までの処理は1回以内)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアニンを含む農薬の総使用回数	スピネトラムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	フラメトピルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色菌核病菌) ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメカイ フタオビコヤカ イネミズゾウムシ イネトロイムシ イネツトムシ コメイチユウ イネヒメハモクシリハエ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	移植7日前～移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(移植時までの処理は1回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)							

(2) ボクシーWR 粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	スピネトラムを含む農薬の総使用回数	イチアニルを含む農薬の総使用回数	フラモビールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 イネミズウムシ イネトノオイムシ ニカメイチュウ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内)
湛水直播水稻	いもち病 紋枯病 イネミズウムシ イネトノオイムシ ニカメイチュウ フタオヒコヤガ イネツトムシ キリウジガガンボ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(は種時までの処理は1回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色菌核病菌) ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメガ フタオヒコヤガ イネミズウムシ イネトノオイムシ イネツトムシ ニカメイチュウ イネヒメハモグリハエ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	移植7日前～移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(移植時までの処理は1回以内)

1 1. 登録番号 23186 : スタウト顆粒水和剤
(イソチアニル 40.0%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 内穎褐変病 もみ枯細菌病 白葉枯病	200 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 500 mL	は種時覆 土前~移植 当日	1 回	灌注	3 回以内(移植時までの 処理は 1 回 以内、本田 では 2 回以 内)
		高密度には種する 場合は 50 g/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱 当り 2.5~5 g(希釈倍 数 100~200 倍))					
		400 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 1000 mL				
		高密度には種する 場合は 50 g/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱 当り 2.5~5 g(希釈倍 数 200~400 倍))					
	苗腐敗症(も み枯細菌病 菌)	200 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 500 mL	は種時覆 土前			
		高密度には種する 場合は 50 g/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱 当り 2.5~5 g(希釈倍 数 100~200 倍))					
		400 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 1000 mL				
		高密度には種する 場合は 50 g/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱 当り 2.5~5 g(希釈倍 数 200~400 倍))					

1 2. 登録番号 23195 : ルーチンフロアブル
(イソチアニル 18.3%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病	75~100 倍	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 0.5 L	移植 3 日前~移植当日	1 回	灌注	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	もみ枯細菌病	75 倍					
稲	いもち病	原液	100 mL/10 a	移植時		ペースト肥料に混合し側条施肥田植機で施用する。	3 回以内(直播では種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)

1 3. 登録番号 23204 : サイクルヒット箱粒剤、
登録番号 23205 : フルターゴ箱粒剤
(クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	フラメトピルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ウカ類 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネトヨイムシ コメイチュウ イネツトムシ フタホビコヤカ イネヒメモグリハエ コブノメカ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	移植 3 日前~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	4 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	2 回以内(移植時までの処理は 1 回以内)
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)							

1 4. 登録番号 23206 : スタウトダントツ顆粒水和剤、
登録番号 23207 : ツインターボ顆粒水和剤
(クロチアニジン 15.0%・イソチアニル 20.0%水和剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の使用 回数	使用方法	クロチアニジンを含む農 薬の総使用回数	イソチアニルを含む 農薬の総使用 回数
稲	いもち病 イネノメイシ イネミズウムシ	100 g/10 a	移植時	1 回	ペーシ肥料 に混合し 側条施肥 田植機で 施用する。	4 回以内(直播での は種時又は移植時 までの処理は 1 回 以内、本田での散 布、空中散布、無人 航空機散布は合計 3 回以内)	3 回以内(直播 での種時又は 移植時までの 処理は 1 回 以内、本田で は 2 回以内)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用 時期	本剤 の使用 回数	使用 方法	クロチアニジンを含 む農薬の 総使用回数	イソチアニルを含 む農薬の総 使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネノメイシ イネミズウムシ	100 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱当たり 500 mL	移植 3 日 前~ 移植 当日	1 回	灌注	4 回以内(移 植時までの 処理は 1 回 以内、本田で の散布、空中 散布、無人航 空機散布は 合計 3 回以 内)	3 回以内(移 植時までの 処理は 1 回 以内、本田で は 2 回以内)
		高密度には種 する場合は 100g/10a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 5~10 g(希釈倍 数 50~100 倍))						

1 5. 登録番号 23458 : エバーゴルフオルテ箱粒剤

(イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネミズゾウムシ イネトヨイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ いもち病 紋枯病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約5 L)1箱 当り 50 g	は種前	1回	育苗箱の 床土又は 覆土に均 一に混和 する。	3回以内 (移植時ま での処理 は1回以 内、本田 での散布 は2回以 内)	3回以内 (移植時ま での処理 は1回以 内、本田 では2回以 内)	1回
	白葉枯病		は種時 (覆土 前)~移 植当日					
	疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病		移植当 日					
	白葉枯病 イネミズゾウムシ イネトヨイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ いもち病 紋枯病	高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植3 日前~ 移植当 日					

1 6. 登録番号 23459 : エバーゴルワイド箱粒剤、
登録番号 23627 : エバーゴルプラス箱粒剤
(イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル
2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	イミダクロプリ ドを含む 農薬の総 使用回数	クロラントラニ プロールを含 む農薬の 総使用回 数	イソチアニルを 含む農薬 の総使用 回数	ペンフルフェン を含む農 薬の総使 用回数
稲 (箱育苗)	穂枯れ(ごま葉枯 病菌) 白葉枯病 内穎褐変病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約5 L)1箱 当り 50 g	は種時 (覆土前)~ 移植当日	1回	育苗箱の 上から均 一に散布 する。	3回以内(移 植時まで の処理は1 回以内、 本田での 散布は2回 以内)	1回	3回以内 (移植時 までの処 理は1回 以内、本 田では2 回以内)	1回
	疑似紋枯症(褐色 紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色 菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色 菌核病菌) もみ枯細菌病		移植当日						
	イネトヨイムシ イネミスゾウムシ カンカ類 ツマグロヨコバイ コメテウ コブノメイガ イネツトムシ ワタヒコヤガ いもち病 紋枯病		は種時 (覆土前)~ 移植当日		は種前				
	穂枯れ(ごま葉枯 病菌) 白葉枯病 内穎褐変病	高密度には 種する場 合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使用 土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植3日 前~移植 当日		育苗箱の 上から均 一に散布 する。				
	疑似紋枯症(褐色 紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色 菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色 菌核病菌) もみ枯細菌病		移植当日						

17. 登録番号 23511：箱王子粒剤

(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤 の使用 回数	使用 方法	クロチアニジン を含む農 薬の総使 用回数	スピネトラム を含む農 薬の総使 用回数	イソチアニルを 含む農薬 の総使用 回数
湛水直 播水稻	いもち病 イネミズゾウムシ イネトヨイムシ コメイチユ フタホコヤカ イネツトムシ キリウジガガン ホ	1 kg/10 a	は種時	1 回	は種同 時施薬 機を用 いて土 中施用 する。	4 回以内 (は種時ま での処理 は 1 回以 内、本田 での散 布、空中 散布、無 人航空機 散布は合 計 3 回以 内)	3 回以内 (は種時ま での処理 は 1 回以 内、本田 での散布 は 2 回以 内)	3 回以内 (は種時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌 病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま 葉枯病菌) ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネトヨイムシ コメイチユ フタホコヤカ コブノメカ イネツトムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱 の床土 又は覆 土に均 一に混 和する。	4 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 での散 布、空中 散布、無 人航空機 散布は合 計 3 回以 内)	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 での散布 は 2 回以 内)	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)
		高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						
		育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土 前)~移植 当日		育苗箱 の上か ら均一 に散布 する。			
		高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						
	イネヒメモグリ バエ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	移植 3 日前~移 植当日					
		高密度には種 する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						

作物名	適用 病虫害名	使用量	使用 時期	本剤 の使 用回 数	使用 方法	クロアジンを 含む農 薬の総使 用回数	スピ・ネラム を含む農 薬の総使 用回数	イソチアルを 含む農薬 の総使用 回数
稲 (箱育苗)	苗腐敗症(も み枯細菌病 菌) 苗立枯細菌 病	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱 の床土 又は覆 土に均 一に混 和する。	4 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 での散 布、空中 散布、無 人航空機 散布は合 計 3 回以 内)	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 での散 布は 2 回以 内)	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)
		高密度には種 する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						
		育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土前)		育苗箱 の上か ら均一 に散布 する。			
		高密度には種 する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						

18. 登録番号 23570 : スタウトパディート箱粒剤、
登録番号 23571 : ルーチンデュオ箱粒剤、
登録番号 23621 : ツインパディート箱粒剤、
登録番号 23622 : ルーチンパンチ箱粒剤
(シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数		
稲	いもち病 イネミズウムシ イネトヨイムシ	1 kg/10 a	移植時	1 回	側条施用	1 回	3 回以内(直播での場合は種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)		
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネミズウムシ イネトヨイムシ フタホヒコヤガ ニカメイチュウ ツマクノヨコバイ イネツトムシ コブノメイガ イナゴ類 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネヒメダマシバエ ヒメトビウナ 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)		
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)							
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネミズウムシ イネトヨイムシ フタホヒコヤガ ニカメイチュウ ツマクノヨコバイ イネツトムシ コブノメイガ イナゴ類 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネヒメダマシバエ ヒメトビウナ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。				3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)							

作物名	適用病虫害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土前)	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	1 回	本田では 2 回以内)
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)					

19. 登録番号 23612 : ボクシー S P 粒剤

(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	スピネトラムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
湛水直播水稻	いもち病 いねつみ いねつみ いねつみ いねつみ いねつみ いねつみ	1 kg/10 a	は種時	1 回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4 回以内 (は種時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	3 回以内 (は種時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)	3 回以内 (は種時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ウンカ類 ツマク ^{ロヨコバ} イ いねつみ いねつみ いねつみ いねつみ いねつみ いねつみ いねつみ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
			は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。			
	いねつみハモグリハエ		移植 3 日前~移植当日					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	スピロネラムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌 約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
			は種時(覆土前)		育苗箱の上から均一に散布する。			

20. 登録番号 23634：ルーチンエキスパート箱粒剤

(イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	スピノサドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネミズウムシ イネトヨイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメカ フタヒコヤガ ニカメイチュウ イネツトムシ いもち病 紋枯病 白葉枯病 疑似紋枯症 (褐色菌核病菌) 疑似紋枯症 (褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症 (赤色菌核病菌) 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L)1 箱 当り 50 g	は種時 (覆土 前)~移 植当日	1 回	育苗箱 の上か ら均一 に散布 する。	3 回以内 (移植時ま での処理は 1 回以内、 本田での散 布は 2 回以 内)	1 回	3 回以内 (移植時ま での処理は 1 回以内、 本田では 2 回 以内)	1 回
		高密度には種 する場合は 1kg/10a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L)1 箱当 り 50~100 g)	移植 3 日前~ 移植当 日						
	もみ枯細菌病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L)1 箱 当り 50 g	移植当 日						

2 1. 登録番号 23773：スタウトパディートD X箱粒剤

(クロチアニジン 0.80%・シアントラニプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 イネミズウムシ イネトモイシ ウカ類 ツマグロヨコバイ イネツトムシ フタホヒコヤガ ニカメイチュウ 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する	4 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 イネミズウムシ イネトモイシ ウカ類 ツマグロヨコバイ イネツトムシ フタホヒコヤガ ニカメイチュウ 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)	は種時(覆土前)~移植当日					
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り 50g	は種時(覆土前)					
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5L)1箱当り 50~100 g)						
	ウカ類	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	移植3日前~移植当日					
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)						

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲	イネミズゾウムシ イネトヨイムシ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播での種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	1回	3回以内(直播での種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

2 2. 登録番号 23890 : 箱大臣粒剤

(クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	フラメトピルを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 イネミズウムシ イネトヨイムシ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内)
湛水直播水稻	いもち病 紋枯病 イネミズウムシ イネトヨイムシ キリウシガガンボ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(は種時までの処理は1回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病 内穎褐変病 イネミズウムシ イネトヨイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタホビコヤガ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	移植 7日 前～ 移植 当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(移植時までの処理は1回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50～100 g)						

2 3. 登録番号 24027 : ハコナイト粒剤

(クロチアニジン 1.5%・フィプロニル 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミズウムシ ツマゲロコバイ ウンカ類 コブノメカ イコノ類 イネトノカイ フタホシコヤカ ニカメチュウ イネツトムシ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する	4回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)						
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する			
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5L)1箱当り 50~100 g)						

2 4. 登録番号 24029 : ルーチンブライト箱粒剤

(シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 もみ枯細菌病 紋枯病 白葉枯病 内穎褐変病 いねこいもシ いねつとムシ ニカメチュウ フタホビコヤガ コブノメイガ いねミスゾウムシ ツマゲロヨコバイ イナゴ類 ヒメトビウンカ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土前)~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	1 回	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	1 回
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a 育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植 3 日前~移植当日					
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色菌核病菌) いねヒメモクグリハエ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	移植当日					

2 5. 登録番号 24128 : スクラム箱粒剤

(クロラントラニプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントニプロールを含む農薬の総使用回数	トリフルメゾピリムを含む農薬の総使用回数	イチチアルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 ウカ類 ツマグロヨコバイ ゴブノメカ フタビコヤガ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱 当り 50 g	は種時覆土前～ 移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	1回
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1箱当り 50~100 g)							
	もみ枯細菌病 白葉枯病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) イネトムシ イネトオムシ イネミスズムシ コメイチユ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱 当り 50 g	移植3日前～ 移植当日						
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5L)1箱当り 50~100 g)							

26. 登録番号 24129：防人箱粒剤

(クロラントラニプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	トリフルメゾピリムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 もみ枯細菌病 白葉枯病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) イネスズウムシ イネトヨイムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ コブノメカ フタホシコヤカ イネツトムシ	育苗箱30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1箱当り 50 g	は種時(覆土前)~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	1回	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)						
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1箱当り 50 g	は種時(覆土前)					
稲	いもち病 ウカ類 コブノメカ	1 kg/10 a	移植時		側条施用			3回以内(直播での種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

27. 登録番号 24130 : 箱維新粒剤、

登録番号 24131 : 箱将軍粒剤

(クロラントラニプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	トリフルメゾピリムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	フラメトピルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病 イネミズウムシ イネトヨイシ ウカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ イネトムシ フタホシコヤカ コブノメイガ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1箱当り 50 g	移植7日前～移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	1回	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(移植時までの処理は1回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)							

28. 登録番号 24132：フルスロツトル箱粒剤

(シアントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤 の使用 回数	使用方法	シアントラニ プロールを 含む農薬 の総使用 回数	トリフルメゾ ピリムを含 む農薬の 総使用回 数	イソチアニルを 含む農薬 の総使用 回数	ペンフルフェン を含む農 薬の総使 用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 ウカ類 ツマゲ ^ア ロヨコハイ イネミズウムシ イネト ^ア ロイムシ コブノメカ ^ア ニカメイチュウ フタホ ^ア コヤガ ^ア イネツトムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g 高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱 当り 50~100 g)	は種時 (覆土 前)~移植 当日	1 回	育苗箱の 上から均 一に散布 する。	1 回	1 回	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)	1 回
	内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯 病菌) 疑似紋枯症(褐色 紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色 菌核病菌) イナゴ ^ア 類	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g 高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱 当り 50~100 g)	移植当 日						

29. 登録番号 24158：ルーチンコア箱粒剤

(チアクロプリド 1.45%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアクロプリドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネトモイムシ イネヒメハモグリハエ ツマグロヨコバイ イネミスズウムシ ニカメイチュウ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	移植 3 日前~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病	高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)					

30. 登録番号 24194 : ルーチンシード F S
(イソチアニル 41.7%水和剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 いもち病	乾燥種もみ 1 kg 当 り原液 6~12 mL(原 液 71 mL/10 a まで)	は種前	1 回	塗沫 処理	3 回以内(直播での は種時又は移植時ま での処理は 1 回以 内、本田では 2 回 以内)

3 1. 登録番号 24319 : ヨーバルトップ箱粒剤

(テトラニプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テトラニプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病 もみ枯細菌病 イネトモイムシ ツマグロヨコバイ コブノメイガ イネツトムシ コメイチュウ イネミスズウムシ フタホシコヤガ イナゴ類 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~75 g	は種前	1 回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1 回	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病 もみ枯細菌病 イネトモイムシ ツマグロヨコバイ コブノメイガ イネツトムシ コメイチュウ イネミスズウムシ フタホシコヤガ イナゴ類	高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	は種時 (覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病						
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) イネヒメハモグリバエ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~75 g 高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植 3 日前~移植当日				

3 2. 登録番号 24473 : ミネクトプラスター顆粒水和剤

(シアントラニリプロール 15.0%・イソチアニル 40.0%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネトモイシ イネミズゾウムシ コメイチュウ イネツトムシ フタホシコヤカ イナゴ類 もみ枯細菌病 内穎褐変病	200 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L) 1 箱 当り 0.5 L	は種時 ～移植 当日	1 回	灌注	1 回	3 回以内 (移植時 までの処 理は 1 回 以内、本 田では 2 回以内)
	いもち病 イネトモイシ イネミズゾウムシ コメイチュウ	400 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L) 1 箱 当り 1 L	は種時				
	いもち病 イネトモイシ イネミズゾウムシ コメイチュウ イネツトムシ フタホシコヤカ イナゴ類 もみ枯細菌病 内穎褐変病	高密度には種 する場合は 50 g/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 2.5~5 g(希釈倍 数 100~200 倍))	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L) 1 箱 当り 0.5 L	移植 10 日前~ 移植当 日				

3 3. 登録番号 24474 : ヨーバルパワーEV箱粒剤

(テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

[illegible]

3 4. 登録番号 24475 : ヨーバルプライム E V 箱粒剤

(テトラニプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テトラニプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数				
稲 (箱育苗)	いもち病 いねみづうみ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱 当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の 床土又は 覆土に均 一に混和 する。	1 回	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)	1 回				
	いもち病 いねみづうみ 紋枯病 白葉枯病 いねつらみ こめいぢゅう こぼれみぢ いねつみ ふたおこやか つまぐろこハイ いねみほろりハエ けこ類	高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱 当り 50~100 g)	は種 時(覆 土前)~ 移植 当日		育苗箱の 上から均 一に散布 する。							
									内穎褐変病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉 枯病菌)	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱 当り 50 g 高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土 壌約 5L)1 箱 当り 50~100 g)	移植 3 日前~ 移植 当日	

3 5. 登録番号 24476 : ヨーバルUG箱粒剤

(テトラニプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テトラニプロールを含む農薬の総使用回数	ピメトロジンを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 いねとろいムシ いねミスヅウムシ ニカメイチュウ コブノメカガ いねツトムシ フタホシコヤガ ツマゲロヨコバイ いねヒメハメグリハエ イナゴ類 ウンカ類	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土 前)~移 植当日	1 回	育 苗 箱 の 上 か ら 均 一 に 散 布 する。	1 回	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)
	内穎褐変病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま 葉枯病菌)	高密度には 種する場合 は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植 3 日前~移 植当日					
		育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱当り 50 g						

36. 登録番号 24514 : スタウトアレス箱粒剤、

登録番号 24516 : 稲名人箱粒剤

(オキサザスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキサザスルフィルを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 いねみづうみ いねつらみ こめいちょう	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	1回	3回以内(直播での場合は種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 いねみづうみ いねつらみ うか類 つまぐろコハイ こめいちょう ふたばこやか いねつらみ こまめいちょう いねつらみ いねつらみ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5L)1箱当り 50~100 g)			育苗箱の上から均一に散布する。		
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5L)1箱当り 50~100 g)					
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種前		育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。		
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)					
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種時(覆土前)		育苗箱の上から均一に散布する。		
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)					

37. 登録番号 24597：ミネクトフォルスターSC

(シアントラニリプロール 6.5%・イソチアニル 17.4%・ペンフルフェン 17.4%水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用 時期	本剤 の使用 回数	使用 方法	シアントラニリ プロールを含む 農薬の総 使用回数	イソチアニル を含む 農薬の 総使用 回数	ペンフル フェンを含 む農薬の 総使用 回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネノミドリムシ イネノミドリムシ コメメイチュウ 紋枯病	100 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L) 1 箱当り 0.5 L	移植 10 日 前~移 植当 日	1 回	灌注	1 回	3 回以内 (移植 時ま での 処理 は 1 回 以内、 本田 では 2 回 以内)	1 回
	いもち病 イネノミドリムシ イネノミドリムシ コメメイチュウ 紋枯病	高密度には種 する場合は、 100 mL/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、使用土 壌約 5L)1 箱当り 5~10 mL(希釈 倍数 50~100 倍))	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L) 1 箱当り 0.5 L	移植 10 日 前~移 植当 日	1 回	灌注			

38. 登録番号 24615 : スタウトアレスモンガレス箱粒剤、

登録番号 24616 : 稲大將箱粒剤

(オキサゾスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%・インピルフルキサム 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキサゾスルフィルを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	インピルフルキサムを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネミズウムシ イネトモイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタホトコヤカ イネツトムシ コブノメイガ イコ類 いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 紋枯病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前(覆土前)~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する	1 回	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	1 回
	苗立枯細菌病 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g 高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)	は種前(覆土前)					
稲	いもち病 紋枯病	1 kg/10 a	移植時		側条施用		3 回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	

39. 登録番号 ー :レアフロアブル
(イソチアニル 18.3%水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	イソチアニルを含む 農薬の総使用 回数
てんさい	褐斑病	400 倍	ペーパー ポット 1 冊当り 1 L(3 L/m ²)	定植 3 日前~定 植当日	1 回	灌注	1 回

「イソチアニル農薬蜜蜂影響評価書（案）」に対する意見募集の結果について（案）

1. 意見募集の概要

（1）意見募集の対象農薬

イソチアニル

（2）意見募集の周知方法

関係資料を電子政府の総合窓口（e-Gov）に掲載

（3）意見募集期間

令和5年9月25日（月）～ 令和5年10月24日（火）

（4）意見提出方法

- ・ 電子政府の総合窓口（e-Gov）
- ・ 郵送

（5）意見提出先

農林水産省消費・安全局農産安全管理課

2. 意見募集の結果

（1）御意見提出者数

- | | |
|--------------------|-----|
| ・ 電子政府の総合窓口（e-Gov） | 2 通 |
| ・ 郵送 | 0 通 |

（2）御意見の延べ総数

2 件

(別紙)

「イソチアニル農薬蜜蜂影響評価書(案)」に対する意見・情報の募集に寄せられた意見・情報の概要及びそれに対する考え方(案)

	御意見	御意見に対する考え方
1	外国の事例を集めて一番厳しい基準に合わせてください。	農薬のミツバチへの影響評価については、農薬取締法の一部を改正する法律(平成30年法律第53号)の施行に伴い、ミツバチの農薬への暴露量を考慮した評価(リスク評価)を導入し、農薬に暴露した花粉・花蜜を持ち帰った際の巣内のミツバチ(成虫及び幼虫)への影響等も考慮した様々な暴露経路を通じた蜂群全体への評価を行うこととしています。具体的な評価法については、外部有識者を構成員とする「農業資材審議会農薬分科会」及び「農薬の蜜蜂への影響評価法に関する検討会」において公開審議の上、定めております(当該評価法については、「農薬の登録申請において提出すべき資料について」(平成31年3月29日付け30消安第6278号農林水産省消費・安全局長通知)別紙2「農薬のミツバチへの影響評価ガイダンス」参照)。 なお、個別の農薬の登録にあたっては、当該評価法及び我が国において申請された使用方法等に基づき、「農薬蜜蜂影響評価部会」において、ミツバチへの影響評価に係る審議を行っているところです。
2	西洋ミツバチだけが対象になっているのですが、日本ミツバチに対しては評価されないのですか？	農薬のミツバチへの影響評価については、農薬取締法の一部を改正する法律(平成30年法律第53号)の施行に伴い、ミツバチの農薬への暴露量を考慮した評価(リスク評価)を導入し、農薬に暴露した花粉・花蜜を持ち帰った際の巣内のミツバチ(成虫及び幼虫)への影響等も考慮した様々な暴露経路を通じた蜂群全体への評価を行うこととしています。具体的な評価法については、外部有識者を構成員とする「農業資材審議会農薬分科会」及び「農薬の蜜蜂への影響評価法に関する検討会」において公開審議の上、定めております(当該評価法については、「農薬の登録申請において提出すべき資料について」(平成31年3月29日付け30消安第6278号農林水産省消費・安全局長通知)別紙2「農薬のミツバチへの影響評価ガイダンス」参照)。 なお、個別の農薬の登録にあたっては、当該評価法及び我が国において申請された使用方法等に基づき、「農薬蜜蜂影響評価部会」において、ミツバチへの影響評価に係る審議を行っているところです。 なお、ニホンミツバチを含む野生ハナバチ類については、陸域の生活環境動植物として、環境省が影響評価を行っています。